

東京修猷会

題字・松尾金蔵書
発行

修猷館同窓会東京支部
事務局

〒185-0034
東京都国分寺市光明町2-14-85
(有)パルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
<http://www.shuyu.gr.jp>



「光の器」

河北総合病院
介護老人施設「オーク」天井画
直径5m (杉並区桃井)

坂口寛敏(543年卒)作

1949 福岡市生まれ
1973 東京芸術大学美術学部絵画科
油画専攻卒
1975 同大学院を修了
1976～1983 西ドイツ・ミュンヘン在住
1982 ミュンヘン美術アカデミー
絵画科卒

国際展出品、個展多数
大橋賞、シナジー21、東京国立近代
美術館賞を受賞

パブリックコレクション：
・梅田スカイビルギャラリー
・立川市ファール立川
・新潟県中魚沼郡中里村ミオンの
森公園
・津山市グリーンヒルズ

戦後史の 大きな節目の年を迎えて思う



東京修猷会副会長

箱島信一

(昭和31年卒)

館友の皆さん、明けましておめでとう
ございます。それぞれの感慨を込めて新
しい年を迎えられたことと思います。

高浜虚子が年初に際して詠んだ「去年
(こぞ) 今年 貫く棒のごときもの」と
いう俳句のように、年月はただ一筋に絶
えることなく流れています。しかし、時
間の流れに身をゆだね、流されながらも
その時間に節目や目盛を取って刻みつけ
ることによって、来し方を振り返り行く
末を展望するという営為を絶えず行うと
いう習性を私たち人間はもっています。

さて、今年は歴史の節目、それも大節
目の年に当たります。わが修猷館高校が
創立二二〇周年という節目を迎えること
もその一つですが、日本の現代史を考え
る上でも、さまざまな節目の年であるこ
とに気が付きます。

に通貨協定が発効しました。国内ではマッ
カーサー司令部による戦後民主化へ向け
ての様々な改革のスタートが切られまし
た。

日本にとっては全国民が打ちひしがれ
た敗戦でしたが、お隣の朝鮮半島では日
本による植民地支配に終止符が打たれた
念願実現の年であり、韓国では今年の八
月十五日の光復節はとりわけ盛大に祝賀
行事が催されることでしょう。

韓国との関係でもう一つ特記されるの
は、難航を極めた日韓基本条約が締結さ
れたのが一九六五年です。韓国は正
常化から四〇年を迎えることです。韓流
ブームなど昨今の盛んな交流を見るにつ
け、四〇年という歳月の重みを感じずには
おれません。

国内政治に関しては、左右の社会党が
統一し片や保守合同がなつて、いわゆる
五五年体制のスタートからちょうど五〇
年になります。こう見てくると、今年が
節目だらけの年であることが分かります。
正直言って、新聞としてどれを取り
上げ何に絞るかを悩ましいところでは
すが、節目に際して歴史を振り返るの
は大切なことだと思います。

統一ドイツ初代の首相として知られた
ビスマルクは、「賢者は歴史に学び、愚
者は経験に学ぶ」と述べています。ある
大学の先生から聞いた話ですが、学生の
多くがベトナム戦争や第二次世界大戦の
ことを知らない。それも戦争の意味合い
でなく、戦争があったという事実さえ知

らない学生がいるということです。多く
の若者にとって、戦争とは九〇年の湾岸
戦争のこと。第二次世界大戦を知らない
から、日本がアメリカと戦ったと聞かされ
ると、「えっ、本当？」ということにな
る。これはウソのようでホントの話で
す。

しかし笑い話では済まされません。先
日、王毅中国大使と会った際、歴史認識
のことが話題になりました。日中間には
忘れない歴史、忘れようにも忘れられな
い歴史など現代史をめぐる様々なズレや
ギャップがあります。往々にして被害者
は健忘症になりがちである一方、被害者
は執拗に過去を抱いて今を生きていま
す。加害者側からみればその執念は鬱陶
しい限りで、政治的思惑との絡みさえ疑っ
てみたくもなるでしょう。

でも私はどんなに辛くとも、あるがま
まに過去の歴史を直視することは、外国
のためというより日本のため、とりわけ
その未来のために必要なことだと思いま
す。先の大戦で三〇〇万人を上回る日本
人のいのちが犠牲となり、国土は焦土と
化して多くの文化遺産が失われました。
その上いつまで経っても払拭できない近
隣諸国に対する引け目や罪悪感。もうこ
りごりだ、二度とあのような歴史を繰り
返してはならない、と思うのが当たり前
の感覚ではないでしょうか。

ですから、ビスマルクからたとえ愚者
といわれようが、自分自身やその周辺の
人々の経験から多くのことを学ぶ必要が
あります。加えて今年は戦後六〇年。歴
史の遷り変に当たって、もっと私たちが歩
いて来た軌跡を歴史の流れの中で見つめ
ることが肝要だと痛感します。

私たちの子孫のためにも、迎えたばか
りの新年を、現代史と向き合う年とした
いものです。

朝日新聞社社長



東京修猷会二〇〇五年活動スケジュール

二木会は六、八月を除く
毎月第二木曜日
六時から食事、七時から講演

1月 会報発行 元旦に全会員に送付

1月13日 二木会 於：学生会館
築室鑑賞 昭和十年卒

2月 2月10日 二木会 於：学生会館
廣瀬貞夫 昭和二十六年卒

3月 3月10日 二木会 於：学生会館
下句 常任幹事会(決算見直し、
総会内容発表 等)

4月 4月14日 二木会 新人歓迎会
4月17日 二木会ゴルフコンペ

5月 5月12日 二木会 於：学生会館

6月 6月3日(金) 総会
「修猷館 文武両道・栄光の歴史」
於：日本都市センターホテル
(幹事学年は五三年卒)午後六時より

7月 7月14日 二木会 於：学生会館

9月 9月8日 二木会 於：学生会館

10月 10月13日 二木会 於：学生会館
下句 常任幹事会(総会報告、
来年度総会計画発表 等)

11月 11月10日 二木会 於：学生会館
下句 二木会ゴルフコンペ

12月 12月8日 忘年会

この他、執行部としては、総会準備のため
の幹事学年との打ち合わせ、会報編集
会議、他支部の同窓会総会への出席など
随時行っています。

平成十六年修猷会学年企画
「修猷伝説！〜知ってる？こんなこと」取材余録

山口祐理子（S53年卒）

平成十六年の東京修猷会総会
学年企画のテーマは、「修猷伝説！〜知ってる？こんなこと」。

花田嘉博先生

私たちの取材は花田先生から
始まった。

先生は昭和三十八年から五十四年
迄修猷に在職され、ご退職後は
学館にご勤務。五十八年から校長
を勤められ、平成六年修猷学館
の歴史に幕を下ろされた。

先生は数学嫌いのため入試科目に
数学のなかった神宮皇學館へ進学
され、その後九大国文科在学中
召集され、海軍少尉として佐世
保へ配属された。

「戦争は人をその『意識』にし
ますね。」「優秀な人材ほど先に
死にました。戦争では貴重な人
材を失いましたね。」

そう語る先生は、海軍で理系の
勉強をする羽目になり、灯火
統制の中、トイレの電球の下で
必死の勉強をされた。その中か
ら生まれた信念が、その後の人
生で役に立った。

「人間死にものぐるいでやる。」



追い込まれて必死でやれば何と
かなる、ということでした。」「
修猷に着任してから、生徒の
鋭い質問に
「こりゃお前とばい」と福岡
中野に回って本を探して調べた
お話。

修猷学館経営でのご苦労。

「修猷の名前があるから頑張れ
た。最後は修猷の名前につながっ
ている以上はその水準に合わせ
るといかならぬですね。」

学館を「潰すことなく返還」し
た先生の思いは跡地の碑文に残
されている。

そして今は「花語会」という
謡曲の会を主宰され、お弟子さ
んの稽古に励んでおられる。

そんな先生は、修猷で教えた
時の精神を今はお話しの教授に
生かしている、と言われる。

「生徒が優秀だからこちらも鍛
えられる。上のものをめざす気
持ち、緊張。舞台に立つような
気持ちで長生きの秘訣ですな。」

取材の折、八四歳になられた
ばかりの先生。弟子に教授資格
をとりとるためには
「あと十年は生きて頑張らんと
と。」

あの温厚な「花ちゃん」はこ
んなにもかっこいいおじいちゃ
ん（失礼！）になつていた。私
たちの来訪にきちんと話の展開
を考えて下さった先生。お心
遣いに感謝し、お言葉の重み
に打たれて、私たちはお宅を後
にした。

小柳陽太郎先生

香椎宮参拝の後、取材班は小
柳先生のお宅へ。

小柳先生といえは、昭和二五
年から五十八年まで修猷に在職さ
れ、今なお多くの信者を持つ
大先生である。取材班にも先生
の授業には鮮烈な思い出があり、



一同大緊張でベルを鳴らした。
「いやあ。何を話せばいいのか
ねえ。」

にこやかに話される先生。張
りのあるお声も昔のままである。
泰星高校勤務中、館長じきじ
きに「スカウト」された先生は、
昭和二〇年代を

「波乱もあつたがよい時代だっ
た」と懐かしむ。

「いい先生は大雑把だけど学問
が好きでねえ。一杯飲んで帰る
という話が聞けたね。」

昭和三〇年代終りから四〇
年代初め、学校の雰囲気が変わっ
たと。先生は生きて頑張らんと
と。

「考え方のしつかりした生徒が
多くて、文武両道を実践してた
ねえ。先生も西村先生や金山先
生、山本先生といった素晴らしい
先生がいてね。」

「前に二木会長の講演の時も話し
たけど、『信なくんば立たず』、
これが一番大事なんだな。修猷
には『信』がある。モリカリな
か実にいい加減なんだけど、
それを『楽しく話せる』雰囲気
がある。自主性の前に『信』が
あり、先生達自身の中にも『信』
があつたんだよ。」

話がモリカリに及んだ所で、
取材班はモリカリの歴史につい
て質問。

「僕が来た昭和二五年にはもう
あつたね。終わらせたのは僕で
本当に申し訳なかった。」
取材班一同、驚愕する。聞け
ば、先生が教務主任をされてい

た昭和五〇年代後半、県教委の方
針から廃止せざるを得なくなった
とのこと。

「モリカリがなくなっても修猷
の自主性は何ら変わるものでは
ない、とか言つてねえ。」
ふと、遠くを見る先生。

「修猷は先輩と後輩との結びつ
きが強い。館歌と一緒に歌える
ことは実に素晴らしいね。」

福岡は進駐軍の教育政策が比較
的緩やかだったので、修猷の校
名も館歌も残つたらしい。

「古いものをオーソドックスに
大事にするという気持ちで、新
しいのを作つたときの活力
になるんだよ。今の教育がだめ
になったのも、古いものを大切
にしなくなったからだね。」

話題は先生が最近最も憂慮さ
れておられる教育問題へ。

「君たちはどんな仕事をする
の？是非いろいろな場面教育
問題への関心を喚起して、教育
に引き寄せて伝えて欲しいね。」

「いい意味でのエリート意識を
育てる必要があるね。戦前のこ
とを否定するけれど、戦前は境
遇が違つていても平等意識はき
ちんとあつたんだよ。何もかも
戦前のことを否定することがお
かしいんだな。」

「修猷には旧制高校卒の先生が
多かったのがおそろひに繋が
ったんだな。修猷の先生の世界の
面白さは今はわからないだろう
ねえ。」

「修猷には戦後の日本が否定し
た良さがある。修猷の良さを知
つて欲しいけどなかなか理解さ
れていないな。」

取材後いただいたお手紙にも
「修猷館で満喫したかけがえの
ない教育の世界が蘇る日を念ず
るばかりです。」とあつた。

そして先生は、学校の歴史へ
の関心の低さも嘆かれた。

「学校の歴史を大切にしたい
ねえ。資料館ももっと活用すべ
きだなあ。名前だけでなく、中
野正剛、広田弘毅、緒方竹虎ら
をきちんと知る必要があるね。」

「金印の出た年に修猷が出来た
んだよ。同窓会でも修猷の歴史
を話題に載せて欲しいね。」

話題は政治、国語教育、と尽
きることなく続いた。

小柳先生の今も変わらぬ矍鑠
とされたお姿、お話しぶりに、

尾嶋信好先生
安武幸文先生

尾嶋先生は昭和十三年卒、安
武先生は昭和十九年卒。お二人
は城南高校での同僚でもある。

お二人の語られる昭和十年代
の修猷館中学。当時の校舎の下
はたたきで冬でも水がまかれ裸
足。ガラスは叩き割られてほと
んどなかったという。先輩は怖
かった。二本木に呼び出されて
殴られる者もいた。戦時中の配
属将校の優しい一面や、日露戦
争生き残りの軍人「おとつちゃ
ん」の思い出。

その頃からすでにモリカリは
存在。時間割変更の天才、西村
先生がモリカリ黒板に書くのを
みながらたかつかけていた。

「理屈を言つてOKしてくる
先生と、説教した挙げ句にけれ
ない先生とがいたけど、標的にな
った先生からは必ずとつてきた
な。」と安武先生。なんと、昭和
十代も五〇年代も同じだった
のである。

尾嶋先生は昭和二十四年から昭
和四十六年まで修猷に勤務され
た。初めて女子の卒業生を出した二
七年卒を懐かし語られる。

「あの頃は二本木の精神が残っ
ていて暴力というものがまだ問
題でねえ。総務の涙の抗議が印
象的でしたねえ。」

安武先生は昭和五一年から六
一年まで修猷に在職され、創立
二百周年では記念事業部長を勤
められた。昭和十四年ご入学時
の制服、五二・五三年卒の閣議
帳、退職時に記念に贈呈された
館旗、などなど、たくさんのお思
い出の品々を持参して下さい。



取材班の「修猷らしきとは？」
という問いに安武先生は次のよ
うに答えて下さった。

「細々したことをこまごま
言わないこと。飲み込むところ
を自分で適当に判断する。」

「どこで区切るか、どこで切り
捨てるか、どこでこつちが退却
するか。しかしこつちはもう一
突っ込んでおこうか、そういう
判断が修猷出身であればまず的
確で嫌味がない。そこだと思
いますね。」

「それは修猷の空気に触れた人
そこで本心に育つた人にはすべ
て言えるね。だからつきあえる。」

我々は探していた「伝説」を
ここに見つけた。もちろん「モ
リ」や「歴史」の中にも修猷の
伝説は存在する。しかしそれ以
上に、「人」の中に修猷の伝説は
息づいているのではないだろう
か。

資料館や校内を一緒に回り、
修猷の歴史を縦横無尽に語つて
いただいた水崎雄文先生（昭和
三〇年卒）。資料館事務室の片隅
にあった戦前の館旗のポールを
慈しむように御覧になるお顔が
忘れられない。

現在福岡修猷学園の園長をさ
れている北崎公康先生。大御所
の先生方に交渉して学校行事を
新しくしようとしたお話の中で、
共に歩み、若くして先立たれた
大久保和之先生を懐かしむ。

今回のインタビューにあたり、
尾嶋先生のお世話役に徹して下
さった田浦賢治先生は、研究会
誌で藤山正紹先生を追悼する特
集を組まれた。修猷で薫陶を受
けた先輩方を大事にしていらっ
しゃる。

総会当日にお招きした田中康
司先生・加来野靖先生のブレ取

取材を終えて

取材を終えて
修猷の歴史を縦横無尽に語つて
いただいた水崎雄文先生（昭和
三〇年卒）。資料館事務室の片隅
にあった戦前の館旗のポールを
慈しむように御覧になるお顔が
忘れられない。

材。変化の時代、修猷らしさを
守ろうとした先生方のお話や、
つわもの生徒たちのこと。
平成世代も教えられた佐々木
英治先生・吉里俊幸先生。
「教壇では国語の精髓を教えね
ば」という小柳先生のお言葉や、
「十年、十五年先を見つめて育
てる。今度の考査のため、では
なく、将来を考えた授業を」と
いう安東治先生のお言葉を大切
にされていたこと。

取材準備段階から協力してく
れた現在修猷在職中の同期、志
戸田弓子先生・山本恵里子先生。
さまざまな先生方の「修猷を
語ろう」という思いがこの企画
を現実のものとした。

館友の皆様にもそれぞれ思い
出の師がおられることと思う。
今回、昭和二〇年代から現在ま
で、我々とともに「修猷の空気
に触れた」先生方のお話を伺う
機会を得、改めて修猷の力を感
じた。

今日のビデオは次の言葉でし
めくくられた。

「戦前、戦後、平成と、時代が
変わり、器が変わっても、修猷
の空気が確かに繋がつていくこ
と、これが修猷の最も大きな伝
説である。」

この企画で、皆様が一とき
でも青春の一日に立ち返り、そ
れぞれの「伝説」を思い出して
いただけたならば幸いです。

さて、大会の方は、前回に引
き続きハンデ戦にて行いました。
優勝の栄冠は、グロス八九、ネッ
ト六三、という素晴らしいスコア
をマークされた岡田知子さん
（S四五年卒）に輝きました。女
性の優勝者は第四回の伊藤洋
子さん（S三五年卒）に次いで二
人目という快挙で、男性参加者
全員脱帽でした。男子バスケロ
は、八三でラウンドされた田中
昭人さん（S五六年卒）で、女子
バスケロは優勝の岡田知子さん
が獲得されました。また、第
一回から連続して参加されている
伊藤洋子さんには、皆勤賞が贈
られました。さらに、見事イー
グルを出された松尾隆広さん
（S五四年卒）にも、特別賞が贈
られました。

次回も、四月十七日（日曜日）
に開催の予定です。出来るだけ
早い開催にコースを決めて皆様
へご案内致しますのでどうぞご
期待ください。皆様の奮闘の
ご参加お待ちしております。

第十五回「二木会ゴルフ」は、千葉
県のニューエルゴルフ倶楽部にて、
藤吉会長以下二四名の参加の下、
十月十七日に盛大に行われまし
た。前週の台風の影響が残り、当
日の天候が心配されましたが、午
後からや風が出たものの抜け
るような青空の下、世代間の交
流を図りつつ秋の一日を楽しむこ
とができました。

本コースは東京からの交通の便
が比較的良好なところ及び過去二木
会のゴルフコンペを行った事がな
いことという基準にて選定しまし

たが、既存の樹木を多く残し開
場三年目とは思えぬほど落ち着
いた雰囲気がありました。但し、
オーガスタと同じ芝を使用し、
固くて早いグリーンには皆さん
苦労されたようでした。



次回も、四月十七日（日曜日）
に開催の予定です。出来るだけ
早い開催にコースを決めて皆様
へご案内致しますのでどうぞご
期待ください。皆様の奮闘の
ご参加お待ちしております。

駐アルゼンチン大使 永井慎也 (S38年卒)

このようなグローバルゼーションの現象は、一つには、以前の事になります。冷戦が終了したことにより東西の壁が無くなり、世界が単一化したこと、また、コンピュータの発展により情報革命が起きたことが挙げられます。これにより、グローバルゼーションの発展とともに、ローカリゼーションの発展をも必要としていると考えられます。このように見てみると、今後我が国に必要とされる事は、

このような動きは自然なようにみえますし、その通りでもあるのですが、他方において顕著に感じられるのは、ロー・カリゼーションだと思う昨今です。(了)

二〇〇四年 米大統領選挙考

NHKアメリカ総局
湧川高史（S53年卒）

「同時多発テロが、フセインとアルカイダの画策だと言ったことは一度もない。」六月、ブッシュ大統領は、議会の独立調査委員会がまとめた三年前の事件報告に對して、こう強弁した。更に選挙戦終盤の十月、今度は政府の調査団が「イラクに大量破壊兵器は存在せず開発計画もなかった。」と結論を出す、これに對してもブッシュ大統領は「フセインが兵器や情報でテロ組織に渡す危険があった」と反論し、「フセイン政権打倒で、アメリカも世界もより平和になった」と主張した。

かし、この見方は間違っていた。選挙戦の天王山、第一回のテレビ討論会で、ブッシュ大統領候補にはケリー候補にイラク戦争の根拠を衝かれ、しばしば立ち往生する。画面に映し出された背中の方角の膨らみは、選対本部のカル・ロブと交信する無線機だったという疑惑も生まれ、直後の世論調査の支持率でブッシュ大統領はケリー候補に逆転された。

更に、第二回。ケリー候補が富裕層への増税とヘルス・ケアの充実を言明し、中間層に支持を呼びかけた。ベトナム戦争などを巡る中傷合戦に終止符を打ち、政界で引き離しかかったケリー陣営の作戦は定石通りで、流れを決めるかにも思えた。ところが

世論調査は互角に戻ったのだ。

同じころ、全米に散っていた取材チームの映像がニューヨークの私達のオフィスに届け始められた。戦争、宗教、雇用、文化、差別、貧富、銃規制。有権者はどちらの候補をどういう理由で支持するのか、その支持はどこまで広がっているのか。インタビューは、それまで薄々は感じていたが、霧に包まれているようではつきりは分からなかった。選挙の争点を明確にしていた。

「ブッシュか、ブッシュじゃな
いか」。ベトナム戦争で負傷しな
がらも、戦功に誇りを持つ退役
軍人。雇用不安に怯えながらも
同性愛や中絶に反対し、キリス

ト教の伝統を重んじる工場労働者。機会均等よりも、アメリカン・ドリームに期待するヒスパニックの貧しい若者。開拓者だった曾祖父から受け継いだライフル銃が一家の宝と答える農民。ブツシユ大統領への支持は、想像以上に強く根深い。

対して、ファルージャの掃討
 作戦に駆り出されている甥から
 毎日のようにメールを受け取る
 ブロードウエーの俳優。人種差
 別と貧困の撲滅を叫ぶラップ歌
 手。ネットで反戦、同性婚、環
 境保護を呼びかけ、三百万人の

結局、選挙は予想以上の大差だった。票の分析はこれからだが、今はこう考えざるを得ない。ケリー候補は「ブッシュでないだけ」だったのではないかと。ブッシュ大統領はブッシュの選挙を戦ったが、ケリー候補もブッシュの選挙を戦ったのではない。小

の道を歩くが、その道は、
「アメリカ国民は、同時多発テ
ロで初めて唯一の超大国になっ
たことを自覚した」と言う評論
家がいる。「強くあらねばなら
ない」、「隙は見せられない。こ
の国を形作ってきた多様な価値
観が、一つの問いかけに集約さ
れている。『あなたは、ブッシュ
が好きですか?』。外国人の私は
不安を感じている。(十一月八日

ベルリンから
アテネ五輪へ
葉室 鐵夫（S10年卒）

の秋には全九州大会で優勝、三年生で全国中学（今のインターハイ）で優勝。四年生で日本選手権二位、極東大会日本代表に選ばれる。

昭和九年日大予科に進み、秋のインターカレッジで世界一の小池礼三選手を世界タイ記録で破る。以後昭和十五年、世界記録保持者のまま引退するが、この間オリンピック優勝を含み公

A portrait of Professor Emeritus Shiro Kawai, an elderly man with white hair and glasses, wearing a dark suit, a blue shirt, and a patterned tie. He is smiling slightly and looking towards the camera.

アテネ五輪へ

葉室鐵夫（S10年卒）

勝の野口みずほ。前回の高橋尚尚として女子マラソンの連続優勝の二種目優勝の北島康介はかつて平泳ぎで五連統優勝の鶴田選手とともに偉業とたたえられ選手。それよりも女子800m優勝の柴田をたたえたい。日本選手会の自由形優勝は戦前のベルリン五輪1500mの寺田以来、女子は初めてのことである。

子と同様、後半2時間を過ぎての抜け出しは、オリンピックはタイムの争いではなく、「人と人の争い」ということを実証したものである。

ただ残念なことは薬物違反で二十人の失格者を出したこと。オリンピックのプロ化がこのよ

うな不名誉な事件として現れてきた。

勝利のあと、犯罪人扱いの検査を受けるなど、私にはとても耐えられないことである。

修猷同窓会

榎山（宮原）ゆかり
（S57年卒）

昨年七月二十日に、

A photograph of three young women in school uniforms. The woman on the left is wearing a white short-sleeved shirt with a dark blue sailor-style collar and a dark skirt. The woman in the middle is wearing a grey jacket over a white shirt. The woman on the right is wearing a white short-sleeved shirt with a dark blue sailor-style collar and a dark skirt. They are all smiling and standing close together.

交流を持つ。

平成一三年に卒業しN.Y.に留学している松浦愛さんは、高校在学中からもつと将来の進路について考えておきたかった、と述べた。

平成十一年卒の山城萌子さんも、ボストンでの留学生活について経験を述べた。

苦学をされ東京大学とハーバード大学院を卒業された高橋規氏からもアドバイスと、諸外国で

き質問される姿がそれを物語っていました。私も修猷の学生だった頃はこのような純粋で輝いていたかと考えに耽りました。

また十一月六日、ロサンゼルス郊外ガーデニナ市割烹磯源にて、L.A修猷同窓会夕食会を開催。これは、N.Y.在住の水月文明先輩のL.A訪問に伴い、三年半冬眠していたL.A修猷会の復活の会合となりました。十四名

が参加。

蟹鍋、蟹雑炊を囲んだ団欒と
新メンバーを含む各自自己紹介、
館歌斉唱、記念撮影を行い、次
回も是非すぐにやろう、と修猷
の団結を誓い別れました。

参加卒業生（敬称略）
水月文明（昭二九）、永川文一
（昭三七）、桑本英彦・公子夫妻
（昭三六）、宗仲之（昭三九、山
田哲義、西山薫（昭四九）、山本
（和田）真奈（昭五三）、前野
（松井）美詠子（昭五六）、江口
昌彦（平九）。

● 銀行

東京芸術大学教授

修猷館は美術の分野に於いて、
 和田三造、児島善三郎、中
 村一他、日本近代美術史に名
 を連ねる先輩諸氏を多く輩出
 している。美術に携わる私の現
 在はこの文化を育む郷土に育た
 ること、美術の河原大輔先生のデ
 ムン指導、県文化会館全館で
 修猷展の開催等、美術部活動
 に受け継いだことが大きかった。

八年居た留学先のドイツでは、美術家もかなり過激で、ヨハン・ボイスが、緑の党を作ったりしていた。そこで私の作風大きく変わった。インスタレーション（仮設展示）では、そが置かれた場所や時間や来場者作品は、密接な、時に相互な関係を成立させる。

新しい美術と地域復興の事
として、越後妻有アートトリ
ンナーレについて。

越後妻有地域・六市町村、沿岸段丘や里山の広大な自然に点在する現代アート作品を通じて、地域活性化を試みた。正面のユニークさもあって、界にも注目された。「現代アは分かりにくい」という声のた、「若い人が来てくれて楽し」た「住民と協働で作る芸術祭」「ワークショップの手法」「こ会」という都会の若者が大勢したことは注目に値する。

私が関わったミオンの森公
は、信濃川河川敷の全長約2 Km
に配置されたランドスケー
プ・ノートである。川は自然の循
来の脈流であり、また天と地を
速する時間軸を内在している。
土土地に入り、この循環系に接
して創造する。その時眼前の
河と天空の銀河が接合され、身
の中に流れ込むと実感する。「
の広場」「地の広場」「水の広場
をつくり、下流域の植生保存エ
」と結び散歩コースを配した。
四面上部に「地の広場」一面
「光の器」の写真)

開幕クラブへの案内 「あびす会開基同好会」

田中正夫
(S36年卒)

東京修猷会の中で数年前から首記の開基同好会が、あびす会の中同好会として稼働しています。「あびす会」は、在京の修猷館柔道部OBの懇親の場として清原慶三氏、和栗貞二郎氏(いずれもS二七年卒)を中心として発足し、清原氏から活動の場を提供いただいて運営している会です。その後柔道以外にも広くオープンし、開基は年二・三回の大会、大会のない月には例会、更には、熊本高校OBとの定期的な交流試合を行うなど、最も活発に運営している同好会と言えます。

このような状況から、この「あびす会開基同好会」を東京修猷会の開基クラブとして位置付け、開基愛好家の諸兄姉に周知をはかり、広く参加を呼びかけることに致しました。この会は定例で大会及び月例会を開催していますが、新規参加会員にも早速同会での開基の雰囲気を感じていただくべく、熱のさめないうちに二月に大会を開催することにしています。こぞぜひご参加ください。

開基好きの方、初心者いずれも大歓迎です。
(一)二〇〇五(平成十七)年度 第1回大会
二月十九日(土)十二時開始
(二)月例会
一月十五日(土)、三月十九日(土)以下毎月第三土

曜日(大会月を除く)
午前十時頃～午後五時頃
参加時間随意
場所はあびす会事務局
「あびす会事務局」
エクサビル六階・渋谷区恵比寿
三二一七
TEL/FAX 0334464482
大会に関しては会場スペースの関係上参加者数によって場所が変更になることがあります。

参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abisukaishuyukan.org)
又は幹事まで
幹事：辻本治(S二〇年卒)
TEL/FAX 0423416154
田中正夫(S三六年卒)
TEL 0334325821
FAX 0334357324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで:
山田昌男(S三五年卒)
TEL/FAX 0432563865
河辺勲(S三五年卒)
TEL 0337207325

同窓生の本

「新版建築学がわかる。」

宮脇 洋
(S51年卒)
朝日新聞社出版本部
アエラムックチーフエディター

朝日新聞社アエラムックの通称「学問シリーズ」は、一九九四年六月刊行の『経済学がわかる。』以来、十年間に約百冊を数えます。私がその三代目編集責任者を引き継いだのが二〇〇三年九月。すでに主だった学問分野はほとんどカバーされ、学生の「硬モノ離れ」が進み、他社のムック出版が競合するなど、セールの方向性には異を唱える声も伝わってきましたが、私はまずまず新鮮なものに仕上がったと満足しています。読者のみなさんにある程度、受け入れていただけたようなのも、喜ばしいことです。

九七年に出した『建築学がわかる。』の改訂新版を企画したのは二〇〇四年春でした。折から世は建築ブーム。テレビ番組で家のリフォームを取り上げられたり、「カーサブルー」のような雑誌が若い世代に受け入れられるなど、その兆候が見えられました。改訂にあたって相談をもちかけたのが、修猷館昭和五一年卒業の同級生、市原出君でした。市原君は建築家として活躍する一方、東京工芸大学教授として教壇に立つ気鋭です。旧版に改めて目をとおり、もらい、どの部分を残し、どういう内容を新たに追加すればよいのか意見を聞こうと、若い担当編集者を伴って会いに出かけました。

「ずいぶん偏っているんだよね。もう少し、いろいろあつてほしいかもしれない」
私には、思いもよらない指摘でした。そうか、偏っているのか。この一言で、なぜか気分が楽になりました。よし、では思いきって新しい内容をいろいろ盛り込もうではないか、と。担当編集者が携えていた「若手建築家の仕事」「住まいと建築」「再生の時代」といったアイデアが、その場であつという間に具体化され、新版の骨格ができあがりました。市原君は「住まい」の項目での執筆を快諾してくれました。

編集作業の途中、改訂の方向性に異を唱える声も伝わってきましたが、私はまずまず新鮮なものに仕上がったと満足しています。読者のみなさんにある程度、受け入れていただけたようなのも、喜ばしいことです。



清水 潔
「漢字のなぞかけ 字謎のふしぎ」
(S35年卒)
実業之日本社

「字謎(じなぞかけ)」という言葉には聞きなれない方も多いことでしょう。一口で言えば、漢字を材料にしたパズルです。しかし、いわゆる漢字当てのバズルやなぞかけとも違います。中国で生まれた漢字を分解していくと、文字の一つから古代の社会や哲学、美学までが見えてきます。それを知ることを愉しむ知的ゲームです。

例えば、「修猷館」の「猷」の字に、なぜ「犬」の字があるのでしょうか。犬は、イヌの象形文字です。古代社会では、犬は聖獣でしたから、犬を生贄にした祭事や葬儀、裁判などが行われていた。

また、「猷」の字の「酉」は、酒を醸造する壺(西はその象形文字)から酒の香気が壺からあふれる形を示します。この香気は、祭礼のとき、神気が降りてくる様子に似ているということから、その意味も示します。そうした犬と酒を組み合わせた「猷」は、神意にかつてその神意であることを決める意味があります。そこから猷は、「はかる」と訓読みします。「みち」とも読むのは、神意によって正しく進むべき道を示すからです。修猷館には、「みちを正しく修める神聖な館」の意味があります。

ウォーキング

石塚 和男
(S26年卒)

健康はその人の生まれて以来の努力の累積成果である。最近若年層まで生活習慣病が問題視されて来ているが、その原因は環境の悪化・運動不足と過食(偏食)、それに過剰のストレスによるもの。日本は世界一の長寿国だが、実は要介護期間が最長。ガンを含む生活習慣病を防止するには、当然のことながら、肥満の防止、免疫力の向上が重要であり、それには適切な食事と良い空気を十分に吸って運動を継続すること、そして十分な睡眠が不可欠である。

特に節食のみのダイエットは不可。栄養のバランスが崩れ、体調不良になるばかりか、エネルギー消費の量も減り、筋肉が減少してしまいい、リバウンドするのは至極当然。運動の継続には、無理のないウォーキングが最適。望ましくは早足で一日三〇分以上。歩かなければ歩けなくなる。歩かない生活が歩けない老後を作る。

ウォーキングの利点は
○何時でも何処でも、体力に合わせて可能。
○個人でもグループでもイベント参加でも。
○血液の循環が良化。
○先ず血液中の脂肪が消費され、血液がサラサラに。エネルギー消費の量も減り、筋肉は7割が足にある。

○脳の活性化。体から脳に行く刺激の中で大脳筋が最大。
○三ヶ月以上継続すると、体質の変化(基礎代謝↑若返り)が起り、必然的に体重が減少する。
○骨粗しょう症の防止

○ストレス解消。食欲↑、睡眠↑。
植物、鳥の観察、スケッチ等も併せて可能。私自身、ビジネス社会から解放され、漸く自然の美しさを本当に実感出来るようになった。ここで全国的に活発に活動している日本ウォーキング協会(JWA)を紹介しておこう。

①歩け先進国は欧州。日本は設立四〇周年。
②加盟団体は都道府県協会+市町村協会二三五(東京六、神奈川七、埼玉九、千葉八)個人正会員 約三〇〇〇人加盟地方協会会員総数 約十万人
その目標はQOL↑、医療費↓
NNK(ねんねんこり)は不可!
PPK(ピンピンこり)で!

③JWAの主な実践活動…北海道・沖縄
I 各種ウォーキング全国大会(約一〇〇)主催
ロ 市町村協会主催ウォーキングの後援
ハ ウォーキングの普及活動
公認指導員養成。教室開催。広報誌発行

「地の広場」

坂口寛敏 作

一か所から見ると同じ大きさに見える皿を数個設置したアースワーク。その皿の中を、来訪者が登り降りすることで、山や川の見え方が変わる。(S43年卒)



「漢字のなぞかけ 字謎のふしぎ」
清水 潔 (S35年卒)
実業之日本社

「字謎(じなぞかけ)」という言葉には聞きなれない方も多いことでしょう。一口で言えば、漢字を材料にしたパズルです。しかし、いわゆる漢字当てのバズルやなぞかけとも違います。中国で生まれた漢字を分解していくと、文字の一つから古代の社会や哲学、美学までが見えてきます。それを知ることを愉しむ知的ゲームです。

例えば、「修猷館」の「猷」の字に、なぜ「犬」の字があるのでしょうか。犬は、イヌの象形文字です。古代社会では、犬は聖獣でしたから、犬を生贄にした祭事や葬儀、裁判などが行われていた。

また、「猷」の字の「酉」は、酒を醸造する壺(西はその象形文字)から酒の香気が壺からあふれる形を示します。この香気は、祭礼のとき、神気が降りてくる様子に似ているということから、その意味も示します。そうした犬と酒を組み合わせた「猷」は、神意にかつてその神意であることを決める意味があります。そこから猷は、「はかる」と訓読みします。「みち」とも読むのは、神意によって正しく進むべき道を示すからです。修猷館には、「みちを正しく修める神聖な館」の意味があります。

ウォーキングの利点は
○何時でも何処でも、体力に合わせて可能。
○個人でもグループでもイベント参加でも。
○血液の循環が良化。
○先ず血液中の脂肪が消費され、血液がサラサラに。エネルギー消費の量も減り、筋肉は7割が足にある。

○脳の活性化。体から脳に行く刺激の中で大脳筋が最大。
○三ヶ月以上継続すると、体質の変化(基礎代謝↑若返り)が起り、必然的に体重が減少する。
○骨粗しょう症の防止

6.3

今年第1金曜日

05

東京修猷会2005年度総会のご案内

テーマ:「修猷館 文武両道 -栄光の歴史-」

2005年6月3日(金) 18:00より
平河町:都市センターホテル
幹事学年:ごきげんよかろう会(昭和54年卒)

会長便り

創立三二〇年の重み

藤吉 敏生
(S26年卒)

母校修猷館は今年、創立二二〇周年を迎える。一七八四年（天明四年）に福岡黒田藩の東学問稽古所として開校以来二二〇年、再興してから二〇〇年の歴史を刻むことになった。この節目の年に当たり、修猷館という学校を私なりに見つめ直してみたいと思う。

修猷館は何とも不思議な学校である。僅か三年しか籍を同じくしていない、もともと私たちが六年間在籍したが、にもかかわらず世間に出てからの修猷館のOBやOGの同志的結合の強さは異常としか言いようがない。

故郷福岡を離れて東京で生活しているからだろうかと思ったりもするが、どうもそうではないらしい。地元福岡でも同じようだ。

他の高校からみれば「なんや！修猷の連中は」となる。いっども会ったことがない人から「私、修猷館卒です」といわれようものなら、即、親近感がわき、旧知の友となる。これは、私だけの感情ではなさそうだ。そこには修猷館という伝統の重み、質

平成16年度寄付金

平成15年11月1日から平成16年10月31日までに180名の皆様から寄付金が納入されています。ありがとうございます。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます。（敬省略。卒年別。順不同）

また、年会費の納入をまだ済まされていない方は、同封の郵便振替用紙にて早速ご送金くださるようお願い申し上げます。

（1口3千円。3千円以上大歓迎。3千円を超えた額は寄付扱いします。）

00170-6-172892 東京修猷会事務局

同窓会本部（福岡）、古田知信（館長）、田中康司（恩師）、加来野靖（恩師）、大島毅一（昭4）、富田明德（昭9）、伊豆丸環・橋本胖（昭11）、鎌田正行・宮川一二（昭12）、高川正通・明石隆次・隈部洋・坂口信（昭15）、不破敬一郎・鶴田一白（昭18）、中島陸月・田尻重彦・毛利昂志・早野俊一（昭19）、山本敏男・田中庸夫・井上博夫・野上三男（昭20（4））、ジャニ岩橋（昭20（5））、太田昭・小洪雅亮・稗田孝道（昭21）、濱田理・遠藤和夫・木下洋一・武内壮介・南雲進・岡崎登（昭22）、田尻和彦・黒瀬幸正・白木彬雄・井上洋一・伊岐和男・高岩淡・大西勇（昭23）、山本義治（昭25）、廣瀬貞雄・藤吉敏生・庄野隆夫・大平修・小西正利・谷谷欣一・淵上貫之・中村道生・太田進（昭26）、谷川清士・金田久仁彦・榊喜美子・飯田英子・都島雄男・福田純也・和栗真次郎・難波榮彦・田辺萌（昭27）、柳島富男・日戸力・児玉黎子（昭28）、長野倬士・村越登・永井充子・斉藤弘子・高木道子・稲川亨・長尾淑實・田中穂積（昭29）、遠山寿一・久保久・坂本幸治・岩田至道・原田雅弘・枝徹也・山崎拓・喜多村寿信（昭30）、近藤徹・村田和夫・箱島信一・阿部公明・中村保夫（昭31）、林克己・鳥居健太・野間正己・平野照幸・吉村剛太郎・井上智晴・島上清明・林克己（昭32）、大西正俊・寺澤美和子・土肥隆一・米倉實・佐竹儀治・貴隆夫・河野理・藤本規矩・香崎温子（昭33）、行武賢一・笠倉紀子・荷原真也・大谷南郎・黒川守雄・川辺猷治・讀井邦夫・尾崎文彦・伴拓郎・加藤泰・服部富美子・田中義人（昭34）、田代信吾・中村純男・可児晋・中村拓介・松本光華（昭35）、石黒正大・土井高夫・城後隆三・高村修一・光安哲夫・井島稔・横倉稔明・田中統一・田中直樹（昭36）、牧文一郎・大須賀頼彦（昭37）、渡辺紀大・上田茂・渡辺俊介（昭38）、高橋登世子・久保田康史・岩本肇（昭39）、園田知子・森秀則・由良範泰・棚町精子（昭40）、新井真理子・片田正行・淀川和也・渡辺耕士（昭41）、山口秀範・溝上雅史・石川透（昭42）、秋重邦和・広瀬豊（昭43）、与小路健・長末清美（昭44）、本田由紀子（昭45）、塚本幸一・大島宏樹（昭47）、安田正俊（昭48）、阿河勝久・八尋一彦・井手富士雄・橋村秀喜（昭49）、真崎理香・野中哲昌（昭50）、加藤純一・油田哲・桐明幸弘・舟橋利周・安東泰隆・大山邦彦（昭51）、鐘川誠司・静間志津子・古賀敏文・寺岡隆宏（昭52）、加藤聡・村田隆信・北島弘伸・甲斐莊一・上蘭勉（昭53）、福原直通・井手慶祐（昭58）、末房佳明（昭60）、剣彰彦（昭62）、岩松洋史（平3）

平成十六年 二木会

- 第516回11月 長谷川 剛史（S40年卒）
武田薬品工業 代表取締役社長
『日本の武田から世界のTAKEDAへ』
- 第515回10月 坂口 寛敏（S43年卒）
東京芸術大学美術学部（油絵）教授
『新しいアートの動き』
- 第514回 9月 伊藤 哲朗（S42年卒）
警察庁生活安全局長
『最近の治安情勢について』
- 第513回 7月 緒方 大助（S54年卒）
らでっしゅばーや（株）代表取締役社長
『生産から消費までの流れのなかで食卓の安全を考える』
- 第512回 5月 牧 文一郎（S37年卒）
（株）損保ジャパン 代表取締役副社長
『金融を巡る環境変化と当社の勝ち残り戦略』
- 第511回 4月 和才 博美（S40年卒）
NTT（株）取締役副社長
『IT技術と私達の生活』
- 第510回 3月 青木 裕子（S44年卒）
NHK・チーフアナウンサー
『声に出す言葉としての日本語の魅力』
- 第509回 2月 福寺 誠一（S43年卒）
森永製菓（株）取締役健康事業部長
『挑戦と進化の歴史 ウィダーinゼリー』
- 第508回 1月 小川 洋（S43年卒）
経済産業省産業技術環境局長
『これからの技術開発政策について』

卒の来嶋靖生君が二〇〇年に当たり作詞した修猷館二〇〇年讃歌の一節を記しておく。

鶴の舞ふ つちかひし
青莪の苑に いまの世に
文武の道を 若人や
生かし伝ふる 若人や
あま海の 潮鳴りに
質朴剛健 ゆるぎなく
若き血潮は 激ち来し
修猷いまだ 二百年

’04総会報告

藤 勝之
(S53年卒)

危惧したとおり、雨、だった。来るべき猛々しい夏を予感させることもない、その日の空そのもの、鉛色の不安とともに、六月十一日、S五三年卒実行委員達は集まった。

個人的なことを言えば、自分は上京以来、一度も「東京修猷会総会」なるものに出席する機会を得なかった。歴史に残る素晴らしい運営をされた、と聞いた昨年ですら、その日は、会場とは目と鼻の先に所在する勤務先で、お手伝いすらできずに、仕事という「日常」に、完全に埋没していたのだった。その

学年だより

東京修猷五五会
二七同窓生？
岡藤正章（S55年卒）

し、所謂「非日常」であろう。各委員のおのの立場で「日常」を抱えながらの、総会準備であった。委員長はオーナー社長である。不運にも、自分の会社の方角を大きく舵取りしなければならぬ時期と重なっていたにもかかわらず、一貫して、明るさで実行委員会をリードしていた。事務局長は、身内の不幸を乗り越えて、まさに粉骨砕身の尽力であった。それ以外の委員も、家庭や仕事に、それなりの理解を求めつつ、「達成感」への期待の中で取り組んだ。人生におけるこの時期に、「修猷」という「伝説」に對峙する機会を得たことは、実行委員メンバーのみなならず、S五三年卒の同窓生一同の喜びである。

とは言え、それら「非日常」も、毎年毎年、各代の実行委員の皆様の途中で起きていたことであろう、と自覚する。我々が総会準備をする中で起きた、様々な「事件」の数々も、修猷二二〇年の伝説の中では、トリヴィアなエピソードのひとつに過ぎないのに違いない。

今回「総会報告」をしたためるにあたって、再びあの「非日常」を回想するうちに、図らずも次第に微熱を帯び、文中、多少身内に對する自画自賛となつたことは、ご容赦願いたい。

五五会では、数年前から、総会幹事年想定し、関東在住の同窓生の集まりを開くようになり、二〇〇三年には、メーリングリストを作成し、情報交換や交流に密になってきています。総会への参加も徐々に増えています。二〇〇五年の総会にまた「A君」が現れるのかどうかは分かりませんが、この珍事を通して五五会メーリングリストによる連絡も密になり、来たる二〇〇六年の総会幹事担当年次に向けて結束が少し固まったようです。

五五会での二〇〇六年総会の準備はこれからですが、今後は総会幹事を行われた先輩学生のアドバイスなどをお願いすることがあると思います。ご指導よろしく願います。

他、同級生も面識がなかったのですが、同級生ということで楽しいひとときを共に過ごしました。しかしその後「A君」のことを知らないというので、福岡の八組の同級生数名に問い合わせたところ、そんな同級生は存在してなかったということでした。しかしながら誰も実害を被ったわけではないので、修猷

事務局だより

です。驚いてわけを聞くと、その人は都立新宿高校の卒業で、東京修猷会のことにはホームページで知ったとのこと。修猷館は盛んなようです。実は私たちの同期の集まりも第二木曜日に集まる二木会というのです」と言われ、さすがに少し複雑な思いも抱きながら、悪い気もしませんでした。さて、われらが伝統ある「本家」二木会には、皆様のおかげで昨年度には一回平均の出席者数が九十人を超えるという、大変な活況を呈することができ、また総会も前年度に引き続き都市センターホテルで盛大に挙行されました。

他校同窓会がいつも驚くように、総会だけでなくほぼ毎月の二木会を連綿と開催できることが東京修猷会の大きな強みであり、結束力の秘密であると言ってもいいのではないのでしょうか。なお一月の二木会の講師は、昭和十一年（一九三六年）のペルリンオリンピックで二百メートル平泳ぎのゴールドメダリスト、葉室鐵夫先輩（昭和十年卒）を大阪からお招きします。ヒットラーにも会ったという葉室先輩の迫力もある、そして興味深いお話が楽しみです。

改めて皆様方の日ごろのご協力に深く感謝いたします。あわせて今年も会費納入の方、よろしく願います。（幹事長 渡辺俊介）